

移動キャンプ

ベンチャー活動の醍醐味は、ベンチャー年代だけで行うキャンプにある。真のベンチャー活動はキャンプをなくしては語れない。ベンチャーの魅力を堪能するには、ベンチャーの隊キャンプを理解して君たち自身の手で取り組むことである。自分たちで企画して、計画を立て実施するベンチャーの隊キャンプは、今までのキャンプと比べて困難なこともあるだろう。いろいろな問題に遭遇してときには失敗も経験するだろう。しかし、ベンチャーの隊キャンプは今までに経験したキャンプ以上に活動の自由が約束されている。自分たちが思い描いたキャンプを自分たちの手で実現することができれば、たとえ失敗を経験したとしても、それはとてもかけがえのないことだろう。そして、そこから本当の生きる知恵を発見することができるはずである。

この章では、そんなベンチャーの隊キャンプの魅力を紹介するとともに、その実施方法を詳しく説明する。君もベンチャーの隊キャンプの魅力を理解して、楽しいベンチャー活動に取り組もう。

ベンチャーのキャンプ

ベンチャーのキャンプの基本的な形態は移動キャンプである。ボーイスカウト隊のキャンプでは、同一か所にとどまって長期固定キャンプを行い、キャンプ生活を行いながらキャンプ技能を向上させてきたと思う。

ベンチャーのキャンプの基本形態である移動キャンプは、君たちが経験してきた長期固定キャンプで、しっかりとキャンプ技能を身につけていることを前提としたキャンプとなる。移動キャンプは、その名の通りキャンプ地を日々変えて移動しながらキャンプを続けることである。このキャンプの形態は、移動範囲を広げることができ遠くの土地へ足を伸ばしたり、その訪れた土地をある程度の範囲にわたって調査することに向いている。

移動キャンプの考え方は、キャンプそのものはプログラムを展開するための手段である。手段であるからこそ、キャンプ技能を有していることが前提になるのである。移動キャンプは、日中のほとんどの時間を移動やプログラムの展開に費やしている。そのため、迅速な設営と撤営ができることが求められる。この設営と撤営に手間取っているとプログラムに費やす時間がなくなるだけでなく、計画通りの行動がとれずに目的地までたどり着くことさえできなくなってしまう。また、設営や撤営と並行して食事の用意や買い出しなどの数多くの仕事が君たちを待ち受けている。これらをスムーズに行えるようになるには同行した仲間とのチームワークが重要になってくる。それぞれがやるべきことを分担して行うことで快適なキャンプ生活が初めて提供されることになる。そのためにも、事前に役割分担などのしっかりと綿密な計画が必要なのである。

移動キャンプは、自分たちで分担して装備を携行する。そのために持って行ける装備が限られてくるので、装備は軽量でコンパクトなものが必要とされる。ベンチャーのキャンプを実施するために自分たちの隊の装備を自分たちの手で揃えて行くことも移動キャンプの準備となる。固定キャンプでは、カマドを作って薪で炊事をしていたが移動キャンプでは主に携帯燃料とコンロを使用する。

移動キャンプでの主な装備は次のようなものが考えられるが自分たちで工夫して快適なキャンプができるようにしよう。

〈キャンプ装備の一例〉

テント（ドーム型 軽量なもの）、携帯コンロ（白ガソリン、ガスカートリッジなど）、コップセット、炊具（包丁、まな板、ざる、ボール）、灯光器（白ガソリン、ガスボンベ、電池など）

移動キャンプの装備は、登山用の装備などが軽量コンパクトにできているので活用するとよい。



○移動キャンプの実施

全国にボーイスカウトの県連盟事務局がある。移動キャンプを実施するときに各県連盟事務局に地元の団を紹介してもらうことも有効な手段である。キャンプを計画している地域の団を紹介してもらうことができれば、その団に現地の情報や宿泊地の確保などを依頼することもできる。また、先方の団のベンチャーと交流をして活動とともに展開することもできる。また、その返礼として自分の地域にキャンプを招待することができればさらにベンチャーの活動の輪が広がっていくことだろう。

移動キャンプを実施するときには事前にキャンプ地を確保しておくことが大切である。地域によってはキャンプ禁止の場所もある。また、場所によっては危険が伴うこともあるだろう。そういったときのためにも全国のベンチャーが協力することが望まれるのである。

移動の手段としては、一番よいのは徒歩である。その土地を自分たちの脚で歩いて移動するのである。徒歩での移動はその地域のことが一番理解できる。その土地の景色はもちろんのこと、風土や環境が一番体感できるだろう。そこに地元のスカウトとの交流ができれば、さらにその地域のことがよくわかることだろう。

また、自転車での移動も有効である。現地で調達する方法や自分たちの地域から自転車で移動することも考えられる。その行動範囲は徒歩の数倍に広がるだろう。

そのほかにも移動手段は公共の交通機関もあり、電車、バス、飛行機、船といろいろな選択肢が存在する。速く移動する手段、安く移動する手段など、自分たちのキャンプの目的に合わせて手段を選ぶことが大切である。

移動キャンプには指導者が同行することなくベンチャースカウトだけの行動になるので、行った先の団の指導者に頼れる環境を整えることを推奨する。

探検旅行

探検旅行は、移動キャンプの目的である。探検旅行をするために移動キャンプを実施すると考えればよい。探検旅行はベンチャーのモットーである「ルックワイド」を体現することに最も適している活動である。自分たちの知らない地域へ遠出をしてその風土や環境に接することで探検、探究するのである。

探検旅行には、しっかりとした探検のテーマが必要となる。その土地の歴史を探究するであるとか、その地域について名所や風土などを探検するとかである。また、その土地でしか体験できない文化に接することや、その土地の食文化を体験するなど、その探検旅行で自分自身が何を得たいのかをしっかりと事前に決めておくことが大切である。

特別な技術を有するが、山岳縦走なども極めて貴重な探検である。しかし、こういった専門的な技術を必要とする活動に挑戦する場合は事前の訓練をしっかりと行い、実施できる技術を身につけるとともに技術を有するインストラクターの同行などが求められる。

探検旅行の取り組みは、まずは自分たちの好奇心である。何を求めて探検するのが重要なのだ。自分たちの知らない世界を体験することがこの探検旅行の大きな目的である。君たちの好奇心を満たせるように探究するのである。何を探検するのが決まれば計画は大きく進むことだろう。探検旅行の目的が定まるからである。どこに何をしに行くのが決まれば、その目的を達成するための行動を計画するだけである。探検旅行も5W2Hで計画を立てるが、その中でも一番大切なことは目的である。



何処に行くのか……ルート、キャンプ地、行程
 何をしに行くのか…目的（テーマ）、文化を探検する。郷土研究など
 何をするのか……内容、どこを調べるのか、何を体験するのかなど
 いつ行くのか……日程
 誰が行くのか……参加メンバー、キャンプ地近くのの団のメンバーなど
 どのように……電車～徒歩など
 いくらかかるか……予算

探検旅行の目的が決まれば、前記のように計画することが明確になる。それをまとめれば、実施要項ができあがるだろう。できあがった要項をもとに参加メンバー表、食事メニュー、買い出しリスト、備品装備リスト、行程表、課題、地図など項目ごとにまとめていけば立派な実施計画書になる。

計画書に魂を入れる重要な部分は、やはり目的である。何処に何を探検しに行くのか。それさえ決まっていれば、明確な課題を設定することができる。課題が設定することができれば、課題を達成するための行動を考えればよいだけである。ここまでくれば君たちの探検旅行は成功したも同然である。

○探究心を持つ

探検の醍醐味は、自分にとって新たな発見をするということである。自分の知らないことを得ることができたり、見たことのないものを自分の目で見て感じたりすることができる。こういった経験を通して自分自身の新たな一面を発見したり、自分自身の成長を促すことができるのだ。

こういった効果からベンチャーのキャンプでは探検旅行を推奨するのである。世の中には君のまだ見ぬ広い世界が待ち受けている。いつものキャンプ場を目指すのではない。君のまだ知らない世界へ探検の旅に出かけるのである。しかし、探検旅行の目的は違う。キャンプは方法なのである。目的は探検である。だからこそ思い切って君のまだ見ぬ広い世界へ旅立とうではないか。

○アイデアを出す

ベンチャーの仲間がそろったら、みんなで行きたいところ、探検したいことを話し合おう。話し合いにはアイデアを出すことが大切である。どんなアイデアでもよい。自分が実現することが難しいと思うようなアイデアもあるだろう。しかし、そんなことを気にする必要はない。話し合いの場にどんどんアイデアを出していこう。実現が可能かどうかはその後にみんなで相談すればよいのである。その時点では実現が不可能なことでも、年月をかけることで実現させることだってできる場合もある。そういったアイデアこそが活動の質と幅を広げることができるのである。活動の質と幅が広がるほど有意義な探検になるのだ。だからこそ話し合うときに人のアイデアを否定することなく、どんなアイデアであっても聞き入れる文化が必要なのである。

○アクティビティファースト

実践することが重要である。会議のための会議になってはいないか。探検心を忘れてはいないか。キャンプに行くことを敬遠してはいないか。まず探検旅行を実行することである。実践することを第一義に考えるのである。

これは、君たちの隊の先輩から君たちへ受け継がれるべきものであるが、もし君たちの隊にそういった引き継がれるべき伝統がなければ君たちの手で作るようにしよう。最初は大変であるが、君が最初に行動する者になるのであれば、それはパイオニアである。自分たちの道を切り開いていこう。そうすることで、君の切り開いた道は後輩たちがたどる道になるのだ。具体的な例で伝えと、ベンチャー最初の探検旅行は先輩スカウトの探検に同行するといったことでよい。その探検に同行するということは、それなりの役務を担って探検隊の一員となることである。そうすることで探検旅行のノウハウを身につけることができ、だんだんと自分たちの手で企画、計画、実施、評価といったことができるようになるのである。だからアクティビティファーストを心がけよう。



資金の調達

探検旅行を実施するためには資金が必要である。君たちの所属する団の多くは育成会が資金を集め君たちの所属する隊へ隊活動費として支給している。隊費は年間で予算立てをして計画的に活動を展開する。

しかし、君たちが実施したいことと予算の規模が違う場合があったときには調整が必要になってくる。年間計画の中で予算調整を行い実施したい活動の資金を確保したり、団への追加資金の要請を行い確保する。

こういった方法と別に自分たちの手で資金を確保するという方法がある。自分たちの活動の資金を自分たちの手で作ることは、この資金の調達自体が一つの活動になることもある。資金を調達するには、いろいろな方法が考えられる。これから紹介する方法を参考にしながら自分たちに合った方法を考えることもよいことである。

○ガレージセール

自分たちに不要になったものを持ち寄ってガレージセールを行う。隊や保護者の協力を得てたくさんアイテムを集めることで多くの資金を確保することができる。コミュニティ誌などを活用してセールの開催を呼びかけることもできる。

○スポンサーの獲得

君たちの地域の企業や店舗の社長や店主にスポンサーを頼んでみよう。君たちの実施したい活動をしっかりと説明して、計画書や報告書にスポンサーの名前を掲載する。活動の実施後はスポンサーに報告書を提出することはもとより団や地域でも報告会を実施してその場へスポンサーを招待しよう。団関係者や育成会の会員にも会社や店舗を営んでいる方がいることも多いのでスポンサーの依頼をすることもできるだろう。資金を出してもうことができれば必ず領収書を発行して、使用した資金の明細を明らかにする。

○アルバイト

学校の校則で禁止されている所も多いだろうが、可能であれば働いて資金を得ることは、君にとって貴重な経験になる。団関係者に会社や店舗を営んでいる方がいれば、アルバイトをお願いしてみよう。ベンチャーの仲間とチームワークを持って行うことで役に立つこともあるだろう。そういった部分を説明して獲得したい資金に合った仕事を提案するといったことも一つの方法である。

まだまだ資金を調達する方法は考えられるが、こういった方法を展開する場合も指導者に相談して、しっかりと許可を得た状態で行うことが大切である。自分たちの活動の資金を自分たちの手で確保することは実に有意義で意味のあるものだ。

キャンピングの応用

ベンチャーキャンプの基本は探検旅行であるが、探検を広義に解釈すると、様々なキャンピングの応用に行きつく。そこには、高度な野営技能を含むパイオニアリングの世界や、専門的な技能を必要とするスポーツアクティビティや文化活動、ときには研究など、多くの興味深い活動が展開できるだろう。

ここでは、これらのベンチャーキャンプを応用した活動例を紹介するので、君たちも参考に自分たちに合った探検旅行を計画してほしい。

○サバイバルキャンプ

持ち物を制限して、限られた道具と現地で手に入る物だけを使って一定期間生活をする。キャンプでの生活に必要な衣食住を自分たちの力で調達して、いかに快適な生活ができるかを体験する。サバイバルキャンプの条件は自分たちで決めることができる。事前に準備すればするほど、条件を厳しくすることができる。しかし、必要以上に条件を厳しくするとキャンプが成立しなくなるので、ここの部分を調整することが魅力的な活動になるか否かのカギとなる。経験を積むごとに条件を厳しくしていくなど楽しみ方は広がっていく。



サバイバル環境において、移動しながら生活することも考えられるし、無人島などの閉鎖された環境に身を置くことも考えられる。

火の起こし方、水の調達の方法、ビバークの方法、食料の調達方法、技能には、刃物、ロープワーク、救急法、読図など多岐にわたる。

○工作物（パイオニアリング）

一日ではできないような大型の工作物や、工作物を使った活動など展開方法は広がる。川に簡易の橋を架ける、団のキャンプ場に恒久的な自作の橋を架けたり、簡易の小屋を建てる、ツリーハウスの建築なども考えられる。本格的なキャンプオーブンを作成すると、すばらしいオーブン料理を楽しむようになるし、それを応用すれば陶芸だって可能になる。一見難しいと思えるものこそ、やりがいのある活動に展開できるのがパイオニアリングである。

○専門活動

地域の歴史を探究する。水晶谷で水晶を採掘する。化石の発掘。古道の探索（旧東海道、旧中山道の旅）。伝統工芸を体験する。地域のお祭りに参画する。環境調査、生態調査、食文化の調査、自分が興味を持ったものを対象にすれば、活動の幅は無限に広がる。専門活動は、専門家の指導を受ければ、さらに深い活動を展開することができる。博物館や学校の先生などに協力をしてもらったり、地域の研究者の助言を受けたりする方法も考えられる。これはとても興味深い活動となる。

○山岳縦走

日本アルプスなどの有名な山々を縦走してみよう。技術や装備は専門的なものが必要である。いきなり縦走をすることは無謀である。山岳訓練を行い、登山技術を磨く必要がある。また登山計画書を作成して提出することも求められる。これらの技能については、登山の技術を有するインストラクターを探して依頼しよう。学校の先生や、団関係者の中から探すこともできる。登山は無謀な計画や未熟な技能で行うと、大きな危険が伴う活動になるので実施する際には十分な検討と団からの承認を得るようにする。

○カヌー、カヤック

カヌーやカヤックにキャンプ用具を積み込んで、キャンプに出かけよう。流れの穏やかな川や湖などは比較的容易に移動することができる。シーカヤックも技術が向上すれば行うことができる。水上の活動は泳げることはもとより溺者救助の技術も有する必要がある。カヌーの技術は必ず専門の技能をもったインストラクターから指導を受けて技術を認められてから実施する。

○スポーツ

移動キャンプを実施する目的がスポーツをすることも考えられる。例えば冬場ならスキーだ。スキーに行くためには多くの場合、自宅から遠いところまで出かける必要がある。遠くのスキー場に行くために移動キャンプをするという考え方である。スキー以外にも、その土地でしかできないことを体験するために移動キャンプをすることも考えられる。

これらの活動はキャンプの応用である。キャンプをすることを目的にするのではなく、キャンプは目的を達成するための手段として活用するのである。君たちは、ボーイスカウト隊で培ったキャンプ技能を身につけている。せっかく身につけたキャンプ技能を活かすためにキャンプを応用して様々な活動にチャレンジしよう。

そもそも探検旅行自体がキャンプの応用である。だからベンチャーのキャンプは移動キャンプであり、探検旅行なのである。君たちが興味を持ったことを実現するための一つの方法としてキャンピングはある。ベンチャーの仲間とよく話し合った魅力的なベンチャーキャンピングを展開できるようにしよう。ここまでにあげた例や考え方を持てば君たちだけの独創的なキャンプが展開できることだろう。



指導者の承認を得る

君たちのやりたいことと、できることに差がある場合がある。このことは実施したい思いが強ければ自分たちでは気がつかないことがある。だから実施には必ず指導者の承認を得るようにするのである。承認を得るだけでなく計画段階からよい助言を受けることが君たちの活動に幅と深みを持たせてくれることになるので活用しよう。

以 上

